

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第五小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習において、授業では形を正確にとらえることができなくても、覚えたり、日常的に既習漢字を活用したりすることに課題が見られる。 自分の思いや考えを表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字でいろいろな文を作ったり、平仮名で書いていたら直しをさせるなどして、日常的に活用する意識がつくよう指導する。 小テスト及び学期に2回のまとめテストを実施する。満点でなかった場合、直しを確実にさせたり、再テストを行ったりする。(再テストで満点の児童が90%以上にする。) 児童が考えたい、表現したいと思える発問を設定し、表現方法を工夫する。 作文やスピーチを継続して実施する。日記や行事作文など、どの文章においても学習の流れが同じになるよう計画を立て、児童が学習を積み重ねていけるようにする。学年末までに、児童全員が自分の考えを言えるようにする。 朝学習では漢字の書き取り練習を行い、確実に漢字を習得させる。(90%)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 各学級において問題を正確に読み取ったり、適切な答え方をしたりすることに課題が見られる児童は15～20%である。 長さ、時間、かさなど量と測定の領域の問題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の大切な箇所には線を引かせたり、単元に印を付けさせたりすることで問題文の読み取り方や答え方を身に付けられるように指導する。 ノート、プリント、単元テストで、理解を確かめる。(70%以上の正解者が90%以上) ものさしや定規を用いて様々な物を測定したり、時計の模型やマスに入った液体操作したりする活動を繰り返し取り入れることで理解を深める。 ノート、プリント、単元テストで、理解を確かめる。(70%以上の正解者が90%以上)
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物や野菜の観察において、観察するものの細かいところまでよく見て、絵や言葉で表現することに課題が見られる。 学校探検の調べ学習では、多くの児童が意欲をもって取り組んでいたが、グループ内で話し合っって考えを深めたり、友達の考えから刺激を受けて自分の考えをもったりすることには課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察のとき、植物や生き物の色・形・大きさ・数など、観察の観点を示すようにする。また、これらの他に、複数回観察し、どのような変化があるか等にも着目させる。こうした観点で児童が観察カードに記録できるようにする。(90%以上) 単元ごとにグループで話し合う活動を必ず1回以上取り入れる。その中で、友達の考えから自分の考えを深められるよう、声掛けをする。
特別の教科道徳	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の価値項目について、自分事として受け止め、道徳的な価値について、自分の考えを深めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の立場になって考え、自分の考えを友達と話し合ったり、伝え合ったりすることで、道徳的な価値について自分の考えを深められるように、役割演技を取り入れたり、自分の考えをワークシートに記入させたりすることで自分の考えをまずもたせ、その後議論の場を設定する。 ワークシートを回収し確認することで考えの変容や、深まりを見取っていく。(自分の考えを明確に表現できる児童が80%以上)

次年度に向けた
自己評価
(A・B・C)
